



錠前と鍵



真鍮やかん  
(インドネシア)



鎌



矢立 (やたて)

# 丸山太郎の かぎと金工展

企画展「錠前・鍵がカギ」



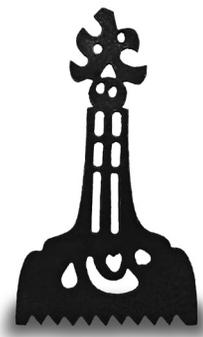
ドアの鍵  
(マリ共和国)



目立て所看板版画



燭台



灰ならし

松本民芸館を創館した丸山太郎は金工品をおよそ360点収集しています。そのうち錠前や鍵は60点ほどですが、たんすや手文庫、銭箱などについている錠と鍵を合わせるとその数は150点を超えます。

特に興味深いのは、朝鮮王朝時代のたんすや棚類の錠や金具です。半閉櫃(パンダジ)と呼ばれる収納家具には、個性的な錠と美しい金具がついています。これらは日々使うなかで愛着が生じる朝鮮の木工品に味わいを添えています。

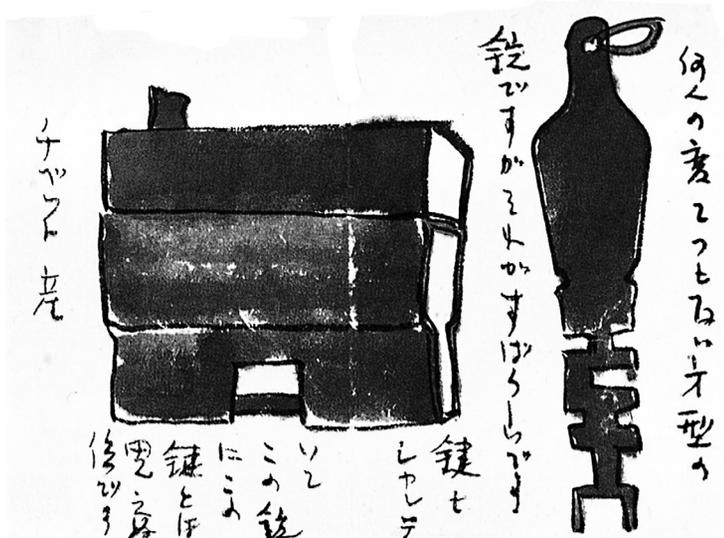
民芸運動の初期、柳宗悦たちが日本各地の民芸調査を敢行したころは、ほとんどの地方に金物横丁などと呼ぶところがあり、それぞれに特色ある金工品を作っていたようです。富山の高岡(銅器)、高知(鉈・斧・鎌・錠)、兵庫三木(のこぎり)、

南部(鉄瓶)などのほか、いわゆる野鍛冶(注文に応じて日用品や農具、漁具などを作っていた鍛冶屋)も各地で盛んに仕事をしていました。

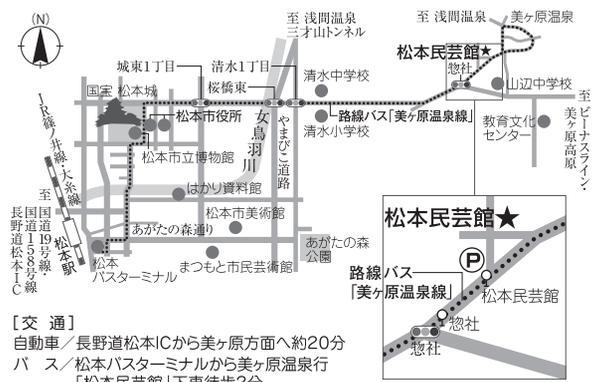
柳宗悦を師と仰ぎ、民芸を求めて全国を旅した丸山太郎には、行く先々にももの美しさを共感しあえる友人がいました。それらの人たちとの交流から、太郎はものの選び方や陳列の仕方、しつらえなどを学んでいきました。

さらに、自身の工芸店で若い作り手たちを育てるなど、まさに丸山太郎が人と人、人とのをつなぐ「キーパーソン」だったのです。

錠前と鍵を中心に、丸山太郎が選んだ金工品の美しさと面白さをぜひご覧ください。



丸山太郎著『雞肋集』チベットの錠と鍵



[交通]  
自動車/長野道松本ICから美ヶ原方面へ約20分  
バス/松本バスターミナルから美ヶ原温泉行  
「松本民芸館」下車徒歩2分

松本市立博物館分館



## 松本民芸館

松本市里山辺 1313-1 TEL (0263) 33-1569  
URL <http://matsu-haku.com/mingei/>